町道路の維持補修

河川では改修に重点

〔土木費〕決算総額は、六千六百四十五万六千円で、全体の一二・三パーセントを占めています。

項目別にみると、道路橋梁費二千七百三十八万二千円、河川費千七百六十二万八千円、都市計画費二千百九万七千円、住宅費三千四百九万千円です。

道路関係では、府道中山・向日町線の拡幅工事の六百十八万四千円を負担し、また、万博関連事業として、都市計画街路一等三類四六号線（外環状線）の一文橋～国道一七一号線に至る府道の改良工事の地元負担金千五十六万八千円を支出しました。

また、各部落の町道の維持補修、新設・改良に千三千六万円をあてました。

河川関係では、おもに改修工事に力を注ぎ、寺戸幹線第一号排水路工事に七百五十九万円、深田川の改修工事に四百二十七万七千円、下森本ならの排水路改修に四百七万八千円など、計千百六十二万八千円を支出しました。

継続事業として、石田川都市下水路の改修工事を五百十一万千円で施工しました。

児童福祉費がおもに占める

〔民生費〕決算総額は、三千五百九十七万六千円で、全体の六・七パーセントを占めています。なかでも、児童福祉費が二千五百二十一万七千円と民生費の七〇・一パーセントを占めています。

第一・第二保育所の運営費あわせて千九百十六万七千円、また妊児童では、三百九十八万九千円をあて保育に努めました。

社会福祉施設では、児童公園の整備、遊具の補充などを進めました。

一方、社会福祉の面では、七十四万一千円をあて、社会福祉・老人福祉を推し進めました。

消防体制を強化

〔消防費〕決算総額は、二千六百三万円で、全体の四・八パーセントを占めています。

常備消防費として、千九百五万二千円をあて、消防署の体制を強化し、火災に備えました。また、消防団活動に四百五十二万五千円をあてました。

さらに、消防施設の整備（防火水そうの新設・補修、危険防止柵無線電話）に三百二十六万円を支出しました。

一文橋～国道171号線

土地改良事業に重点

〔農林水産業費〕決算総額は、二千三百八十万二千円で、全体の四・二パーセントを占めています。

土地改良事業として、物集女の老朽ため池（主池）補強工事に四百二十四万三千円、農業用排水路改修（寺戸・鶏冠井・浄土寺池）に三百四十六分二千円をあて実施しました。また、上植野の和井川改修に負担金百五十二万円を支出しました。

一方、四十二年度から実施している低湿帯の浸水を防ぐ府営西山排水路事業に、町の負担金六百九十三万円を支出しました。

特別会計

〔水道事業〕給水人口三万一千七百二十四人、給水件数九千二百七件と水需要が加速度的に増加し、将来の需要を満たすべく、本年度から四十七年度までの五カ年継続事業として、第七次拡張事業に着手しました。

本年度の事業は、第二浄水場内に深井戸一眼、急速ろ過機をすえつけ、今夏の最大需要時をまかない、また第三浄水場用地買収および造成工事を完了しました。

経営面では、収益的収入八千二百六万四千円、支出六千八百八十八万三千円、残額千三百十八万一千円の利益を生じました。

しかし、第七次拡張企業債の元利償還金の返済を考えると、現時点からその返済時期に備えて経営面の合理化を進め、加入金制度の実施料金の納月徴収など事務合理化による経費の節減、人件費の抑制、自己資本金の充当による金利負担の軽減などの諸方策を講じ、対処していきます。

〔国民健康保険事業〕歳入九千二百七十三万六千円、歳出八千二百三百四十六分二千円をあて実施しました。また、上植野の和井川改修に負担金百五十二万円を支出しました。

一方、四十二年度から実施している低湿帯の浸水を防ぐ府営西山排水路事業に、町の負担金六百九十三万円を支出しました。

昭和43年度決算

一般会計

歳入	5億7,520万1,168円
歳出	5億3,963万8,828円
差引残額	3,556万2,340円

水道事業

収益的収入	8,206万3,907円
収益的支出	6,888万3,290円
資本的収入	1億 982万9,800円
資本的支出	9,896万5,003円

国民健康保険事業

歳入	9,273万6,066円
歳出	8,025万5,008円
差引残額	1,248万1,058円

補正予算

一般会計は六千万円

第三回定例町議会が九月十二日から二十七日までの会期で、開かれました。

この議会で、一般会計の第一回補正予算と国民健康保険事業特別会計の第一回補正予算が、ともに可決されました。

補正前に、一般会計六千百九十七万四千円、国民健康保険事業特別会計百四十四万九千円です。

この補正により予算額は、一般会計九億二千二百十四万円、国民健康保険事業特別会計八千八百四十万四千円となりました。

補正予算のおもな内容は、次のとおりです。

〈一般会計〉

〔歳出〕

▽民生費――寺芝山（コミ会館跡地）に児童公園を設置するための敷地工事費二百万円、第三保育所の建設追加工事費四百三十一万二千円、保育教材、保育室用備品などの備品購入費三百万八千円など、計七百六十六万五千円。

▽衛生費――じんあい処理費として、下水管および下水路掃しゅんせつ工事費二千万円、ガラ撤去および防疫用工事費七百万円など、計三千八万六千円。

▽農林水産業費

農業費――農道費として、五百四十五万九千円を計上。うちわけは、物集女地内の水路改修工事費十五万円、用水路改修工事費九百十四万円、農道改修七百十五万円、農業用排水路改修費八万二千円など、計六百二十九万千円。

林業費――物集女地内の保安林改良事業費五十三万円。

▽商工費――消費者センターの実施に要する経費五万九千円。

▽土木費――各部落の町道補修工事費百五十万円。排水および河川用自吸式ポンプ一台の購入費二百五万円、また市町村管理河川整備事業として、明神川改修の追加工事費七百万円、小倉川改修の追加工事費二千万円、用排水路しゅんせつ工事費十五万円、土地区画整理事業基本調査の地元負担金八十万円など、計三百五万円。

▽消防費――救急車常備による諸備品購入費四万九千円、また消防団第四部屋増築費二百二十万円などの増額と消防施設費九十万円の減額、計三十六万七千円。

▽災害復旧費――物集女地内の公衆便所の破損した屋根の復旧費など、計十五万四千円。

▽諸支出金――土地開発基金を設置するための積立金四千百万円。

▽総務費――固定資産税の土地評価勝手に伴う電子計算委託料など四十六万六千円。

〔歳入〕

これらの歳出をまかなうのは、都市計画税八千万円、地方交付税五千五百五十万二千円、国庫支出金五十九万九千円、府支出金二百九十二万三千円、寄附金百六十一万二千円、諸収入五十三万五千円です。

〈特別会計国民健康保険事業〉

歳出としては、住民基本台帳法に伴う窓口改善のための国保事務の合理化を進めるため、事務機械の購入費六十四万九千円、また防疫給付費の引上げ（一千円から一万円）に伴う保険給付費八十万円を追加し、計百四十四万九千円。

これらの財源としては、国庫支出金六十九万三千円、繰越金七十五万六千円でまかないます。

交通事故が続発

こどもと老人の事故防止

交通戦争のエスカレートぶりは最近とみに厳しくなり、ことし上半期の京都府下のデータをみてみると、二十一分五十四秒に一件発生し、二十八時間四十二分に一人が死亡、十六分六秒に一人が負傷しています。

交通事故の発生のなかでも、やはり一番多いのは、こども老人の事故です。こどもでは、横断歩道外を歩いてはねられたり、路上へとびだしがもっとも多く、老人では、自転車乗車中の事故が多いのです。

車両の事故をみてみますと、安全運転義務違反が圧倒的に多く、そのなかでも車間距離を十分とらずに追突するケースが一番高い率を示しています。

向日町警察署管内のことし上半期の交通事故をみてみますと、百四十七件発生し、二人が死亡、百八十四人が負傷しています。

この交通事故を少しでもなくするのは、歩行者や運転者自身ひとりひとりが正しい交通ルールを守るしか方法がありません。正しい歩行、正しい運転の基本的なルールから手ほどきしましょう。

なお、お年寄りのおられる家庭では、お年寄りが交通の激しいところへ出かけるときは、必ずしっかりした人がつきそうようにしましょう。

火災は月一件の発生

上半期の火災統計から

このほど消防本部がまとめた、ことし上半期（一月～六月）の火災統計をみると、町内で発生した火災は六件、月一件の割合で発生しています。このうち、建物火災は五件で、損害額一百四十七万円、いたましい犠牲者が一人でています。

発生件数は前年一年間の四件を半年で二件もオーバーしていて、火災の多発年になる心配があります。過去五年間の統計によれば、年間の発生件数は、四十二年がピークで十件、ついで四十一年の七件、四十三年の四件、四十年の二件を記録しています。

消防関係者の間では「人口が二倍になれば、火災は四倍になる」といわれています。防火に無関心な人も多くなりますし、生活様式の進歩によって、電気製品や石油製品などさまざまな火災の原因がふえてきたことなどが、火災の増加の原因になっているようです。

教育委員　公平委員　を任命

教育委員――柚木春雄氏の任期満了、安田武夫氏の退職に伴って、十月一日付で柚木春雄氏（68才）を再任、後任の委員に、岡嶋荘氏（39才）を任命した。

また、公平委員に安藤弘一氏（65才）を選任した。

▽岡嶋　荘氏――寺戸小学梅ノ木一回志社経済専門学校卒業、職業商店経営者

▽安藤弘一氏――寺戸小学斎宮二年の六、京都府加佐郡高野小学校高等科卒業、無職（京都府町村会事務局次長、京都府町村職員退職手当組合収入役（兼）を歴任、四十四年二月退職）